

明治期・真宗大谷派における高等教育就学実態について

江島 尚俊

本発表の目的は、大谷大学真宗総合研究所(以下、研究所と略記)所蔵の資料を用いて、明治期・大谷派の高等教育機関における就学実態の一端を明らかにすることである。

筆者は、近代日本における「大学と宗教」の關係に大きな関心を抱いており、近年では、戦前において伝統仏教教団が設立した、いわゆる「宗門系大学」に着眼し研究を行なっている。

「宗門系大学」に着眼する理由として、宗教学においては宗教者の近代的形成、近代仏教研究においては伝統仏教の「近代化」、近代教育史においては公的教育制度と宗教、というような学際的な関心にもとづいて「宗門系大学」を研究対象とすることができると考えているからである。

さて、研究所においては、『大谷大学百年史』(二〇〇一年)を編纂する過程において、編纂のための元資料を整理しており、本発表においてはそこでの資料のうち、「成績一覧表」と「所化府県及国別表」における記載情報をもとに、当時の学生数や出身地などの統計的把握を試みた。

「成績一覧表」は明治二〇―四四年の期間が現存しており、学年別に各学生の学年末試験結果が掲載されていた。それをもとに統計処理を行なってみると、上記期間において入学した学生総数は九五四名であり、年間平均は三八・一六名であった。また、学期末試験の受験者総数の年間平均は二三四・八名であった。なお、特徴的なのは明治二七―二九年にかけて試験受験者数の減少がみられた点であった。

「所化府県及国別表」は、明治二二―大正元年に入学した学生を出身府県(国別)毎に整理し、入学後の進学経過を記載したものである。ここでは各学生毎の入学年度や在籍年数、卒業是非などの情報を整理した。その結果、そこに掲載されていた学生総数は八五七名であった。出身地別としては、一位・愛知県一三六名、二位・岐阜県一〇五名、三位・新潟県七四名が上位三位に入っており、大谷派寺院が多い地域の出身学生が多かったことが判明した。次に、卒業者について整理した。本資料は大正元年に作成されていたため、その直前に入学した学生の卒業は記載されていなかった。ゆえに卒業に関して得ることができたのは明治二二―三九年であった。この期間において、入学した学生は五六二名、その内、予科卒業生三六名、本科以上卒業生三六四名、不明三名の合計四〇三名であった。本科以上卒業者の割合は六四・七七%であった。

以上、二種の資料群を用いて就学実態の一端を明らかにしてきた。ただし今回の調査では、高等教育機関として重要な位置を占めていた高倉大学寮(明治二九―四五年)に関する資料を得ることができなかった。これは研究所内にも所蔵されていないため、資料存在の有無の判断も含めて今後の課題としたい。

最後になるが、本発表の準備過程において、大谷大学真宗総合研究所において多くの資料提供を受けるなど多大なご協力を頂いた。ここに御礼申し上げる次第である。また、本稿は科学研究費若手研究(B)「近代日本の「宗門系大学」における僧侶養成と学術研究に関する実証研究」(研究課題番号・二三七二〇〇三四、平成二三―二四年度)の研究成果の一部である。